

谷口雅宣 三代目総裁 によって失われしめられたもの

その3 一神様の取り替え「住吉大神」から「造化の三神」へ (1)

生長の家大神は住吉大神である

生長の家は宇宙の本源神の応化神にまします住吉大神が、尊師谷口雅春先生に天降り給いて、今から92年前の昭和5年に立教されました。

住吉大神は尊師を通して33の神示をお示しになり、人類を“人間神の子”の悟りに導くため、唯神実相哲学の聖典『生命の真相』、神癒の聖經『甘露の法雨』、最高の瞑想法「神想観」をお与えになりました。更に、みこころの天になる世界は中心帰一世界であり、その地上顕現の聖なる使命を持つ国が、日本国であるとお説きになりました。

その住吉大神の導きと、尊師谷口雅春先生の慈愛に包まれて、生長の家は信徒百万の大教団となったのです。

谷口雅春先生ご真筆の「住吉大神」の神霊符

現在、信徒にお祀りさせないよう下附を中止している。



総本山職員の手書きによる
現教団の「造化の三神」神霊符
(谷口雅春先生を学ぶ会発行『甦れ！生長の家』より引用)

数々の所業の末に住吉大神を
脇神に押し込めた谷口雅宣氏

しかし、昭和60年、谷口雅春先生がご昇天され、谷口清超先生が二代目の総裁に就かれると、雅宣氏は副理事長等の重要役職を担い、谷口雅春先生が推進された人類光明化・日本国実相顕現運動の形骸化を図るようになりました。

具体的には、生政連の実質的解散、国民運動「日本を守る国民会議」からの脱退、愛国書等を含む多くの聖典の実質上の絶版、神誌の改変等々、数え上げればきりがありません。

かくて平成11年、雅宣氏は総裁代行の指名を受けるや、谷口雅春先生を信奉する熱心な弟子、愛国的色彩の強い弟子の方々を“原理主義者”として、理事、教化部長等からの一掃を図り、

更には運動の柱を人類光明化・日本国実相顕現運動から、地球環境保全・国際平和和信仰運動へと転換したのです。

そして、谷口清超先生が逝去されるや、「面授によって三代目総裁に就任した」と宣言し、山梨の地に百数十億円をかけて本部を移転。東京原宿の本部会館玄関上に輝いていた生長の家大神の御神像をとりはずし、更には戦後日本が復興からまだ日も浅く貧しかった昭和29年、谷口雅春先生と信徒が心魂傾けて建造した本部会館まで解体するに至ったのです。

こうして雅宣氏により、谷口雅春先生が信徒とともに心血を注いでおつくりになった、組織や機関誌や由緒ある建物などが次々に破壊されることとなりました。

中でも尊師谷口雅春先生は、晩年の昭和53年、生長の家を導き給うた住吉大神を顕齋するため、長崎の地に宇宙浄化・鎮護国家の龍宮住

吉本宮を建立され、この地を総本山として天皇国日本護持の“聖地”とされましたが、雅宣氏はこの本宮から鎮護国家の使命を外した上、“聖地”と呼ぶことを禁じました。

さらに又、谷口雅春先生御自ら龍宮界より勧請された住吉大神を、生長の家の中心の神から脇神に押し込め、代わりに造化の三神（天之御中主大神・高御産巢日神・神産巢日神）を主神とする神様の変更を行ったのです。（平成26年11月21日、総本山秋季大祭に於いて）

かくて尊師が神名をお書きになった尊い“住吉大神”の神霊符は下附を中止され封ぜられることになったのです。

全く異質の宗教団体となった現教団
令和2年4月7日の通達

つづいて令和2年4月7日、教団は造化の三神を総本山だけでなく、各教化部、各信徒の家庭においても祀るようにとの指示通達を出しました。そして、私たちが祈るとき最初にのべる「實相礼拝」のコトバを、「實相の御額（御軸）を通して宇宙の大生命に礼拝いたします」から「造化の三神と七重塔を通して宇宙の大生命に礼拝いたします（要約）」にせよと変更を指示しました。

これは、生長の家大神を、住吉大神から造化の三神に変更するという宗教革命的指示であり、又、實相額を通さずに祈るという祈りの形の変更は、近い将来、實相額を無用のものとする意図を含むものでありましょう。

これによって、「生長の家」という名称は同じであっても、今日の教団が信仰する神を変えたことは、人間の頭脳を取り替えたようなものであり、谷口雅春先生の「生長の家」とは異質の宗教になってしまったのです。

住吉大神と谷口雅春先生

それでは、住吉大神とはいかなる神様で、また谷口雅春先生とはどのような関係にあられるのかをご紹介します。

聖典『實相と現象』に、「生長の家大神とは住吉大神である」と題する次のご文章が掲載されています。

「生長の家大神とは誰方であるかと言いますとこれは阪神間の本住吉神社にお祀りしてあるところの住吉大神であられまして、『古事記』に、天照大御神様がお生れになるに先立って、此の宇宙浄めの神として、水と塩（靈）とを以て浄め給うところの龍宮界の神様として現れられたところの上筒之男神、中筒之男神、底筒之男神と言われる三柱の神様を一體に総称して、住吉大神（俗稱すみよしの大神）と申しているであります」

住吉大神は天照大御神がお生まれになる下準備として浄化の働きをなされた神様であり、生長の家は、その住吉大神の導きによって始まったのであると、谷口雅春先生は、次のようにお示し下さっています。



谷口雅春先生が毎朝参詣された本住吉神社【昭和初期】

生長の家の人類光明化運動は住吉大神の導きで始まった。

「わたしは兵庫県神戸に生まれた。わたしの産土神は生田神社で、その祭神は天照大御神の御妹君の稚日女神だということである。…私の運命の大体の方向は、私の過去の業績に基く決算によって、産土神が、何某の許に生まれよ、しかしして何某の許へ養子に行き、結局、住吉大神の御旨を奉戴して人類光明化運動に励むと同時に、日本国家を護る運動を起すように導かれたのであった」（『理想世界』誌昭和49年12月号「人類光明化運動の神々の系譜」）

ここに示されてあるとおり谷口雅春先生は、明治26年、兵庫県の烏原村でお生まれになり、数え年四歳で養子に行かれたことにより兄弟の中で唯一人高等教育をうけることとなり、早稲田大学時代、大本教時代を経て東京の浅草で執筆中、関東大震災に遭われ神戸に帰郷される。そこで借りた家が本住吉神社の近くだったので。

「わたしは、朝風呂が好きでしてね、その頃には「勇み湯」というお風呂が午前五時から沸いていたので…誰も入らない一番風呂に入って…その帰りに…本住吉神社へ毎日お詣りして、日本国の隆昌と、天皇家の御繁栄をお祈り申して、帰ることにしておりました。そのときに、住吉大神の靈感をいただいて、そして、生長の家の現在説いている真理を授かったわけなんです」（『生長の家』誌昭和53年10月号「住吉大神と私」）

「毎朝礼拝後、自宅に帰って静坐黙念の修行をつづけているうちに、神想観の坐法や呼吸の仕方なども自然に教えられた。…その時わたしは人類光明化のために機

関雑誌『生長の家』を出せという神の声をきいたのであった」（『理想世界』誌昭和49年12月号「人類光明化運動の神々の系譜」）

このように谷口雅春先生は、住吉大神から『生命の實相』『甘露の法雨』『神想観』を授けられて生長の家を創始されたのです。

それ故、「生長の家の教は住吉大神より来る。私の教ではないのである。自分は大先生ではないのである。大先生は住吉大神である」（『生長の家』誌昭和16年12月号十二月四日の言葉「住み吉き日」と述べておられるのです。

幽齋から顕齋へ 入龍宮を経て出龍宮へ

総本山の龍宮住吉本宮の落慶は昭和53年ですが、谷口雅春先生が住吉神社奉祀の発願をされたのは、その20年前の宇治別格本山の宝蔵神社造営計画に合わせて、「生長の家大神は神道では住吉大神であらせられるから尚、奥の院には住吉神社を奉祀してその神徳を顕揚したい希望をもっている」（『生長の家』誌昭和33年6月号「明窓浄机」とご発表になったところから始まります。その後、宇治に於いては、神癒の社・入龍宮幽齋殿が建立されることとなりました。

そのときの「入龍宮幽齋殿竣工慶祝堂の祝詞」の一節には、「この社殿の中央に天照大御神、左右に龍宮の大神にまします水火土大神、住吉大神をいつき祀り、これの殿を幽齋殿とし、住吉大神ここに御し給いて龍宮海秘沈の真理を説き給う」（『生長の家』誌昭和46年12月号）とあり、

また「幽齋とは形式を通して神を礼拝するところの顕齋に対する語である。すなわち魂を鎮めて神と一体なることを帰する神想観を厳修する齋殿のことである」（『生長の家』誌昭和42年1月号）とお示し下さいました。

こうして住吉大神の幽齋が整い昭和50年、いよいよ御顕齋への道が具体的に開始されることとなります。当時谷口雅春先生は、日本の危機に際しては幽齋と共に顕齋が必要であるとして、次のようにご教示下さいました。

「今、日本国の安泰に最も必要なのは、天照大御神の出御の道を浄め奉った宇宙浄化の神——住吉大神を表に出すことである。住吉大神は唯今、宇治別格本山の龍宮幽齋殿に幽齋されて在まして…併し、今や日本国の危機の事態は、住吉大神に現象の表に臨御して頂いて、直接、現象界にその御光を頂いて、日本国の危機の暗雲を消去して頂き、唯今、日本統治の圏外にあらせられる、謂わば、天之岩戸かくれにまします天照大御神の皇孫にまします天皇の御光を現象界にまで射し込ませる道を禊めなければならぬ時である。それには幽齋と共に顕齋を必要とするのである。…そのためには住吉大神の御殿として社殿をしつらえ奉らねばならない」（『生長の家』誌昭和50年2月号「明窓浄机」）

こうして、「日本国家を千万年安泰にする靈的礎を築くために…鎮護国家を目的とするお宮であって住吉大神の御出御をお願いするための社」として（『生長の家』誌昭和50年9月号）龍宮住吉本宮の建立は始まったのでした。（次号につづく）